

正力松太郎 しんりくしょうたろう 實業家、政治家。明治十八年四月十一日富山生れ。昭和四十四年十月九日歿（八五—一九六）。明治四十四年東京帝國大學法科大学獨法科卒。大正三年警視廳に入ると、十二年虎ノ門事件で引責辭任。讀賣新聞社社長に就任し、昭和九年大日本東京野球俱樂部創設。戦時中大政翼賛會總務。一十七年日本テレビ放送網を設立、二十一年衆議院議員（當選五回）。北海道開發廳長官、國家公安委員長、科學技術勲廳長官等歴任。

著書『惡戰苦闘』（大空莊二編、昭和二十七年十一月十日早川書房）、『若き日の思い出』（公著・旺文社編、昭和二十年一月二十日旺文社）、『東洋とは何か』（公著・大阪仏教文化協会編、昭和四十五年十二月十八日大阪・大阪仏教文化協会）等。文獻公、室伏高信『野球と正力』（昭和二十三年五月七日大日本雄弁會講談社）、片柳忠男『創意の人—正力松太郎』（昭和二十六年九月八日オリエント社出版部）、五十八回野清一『正力松太郎—プロ野球の父』（昭和四十一年十一月十日白鶴書房）等刊。